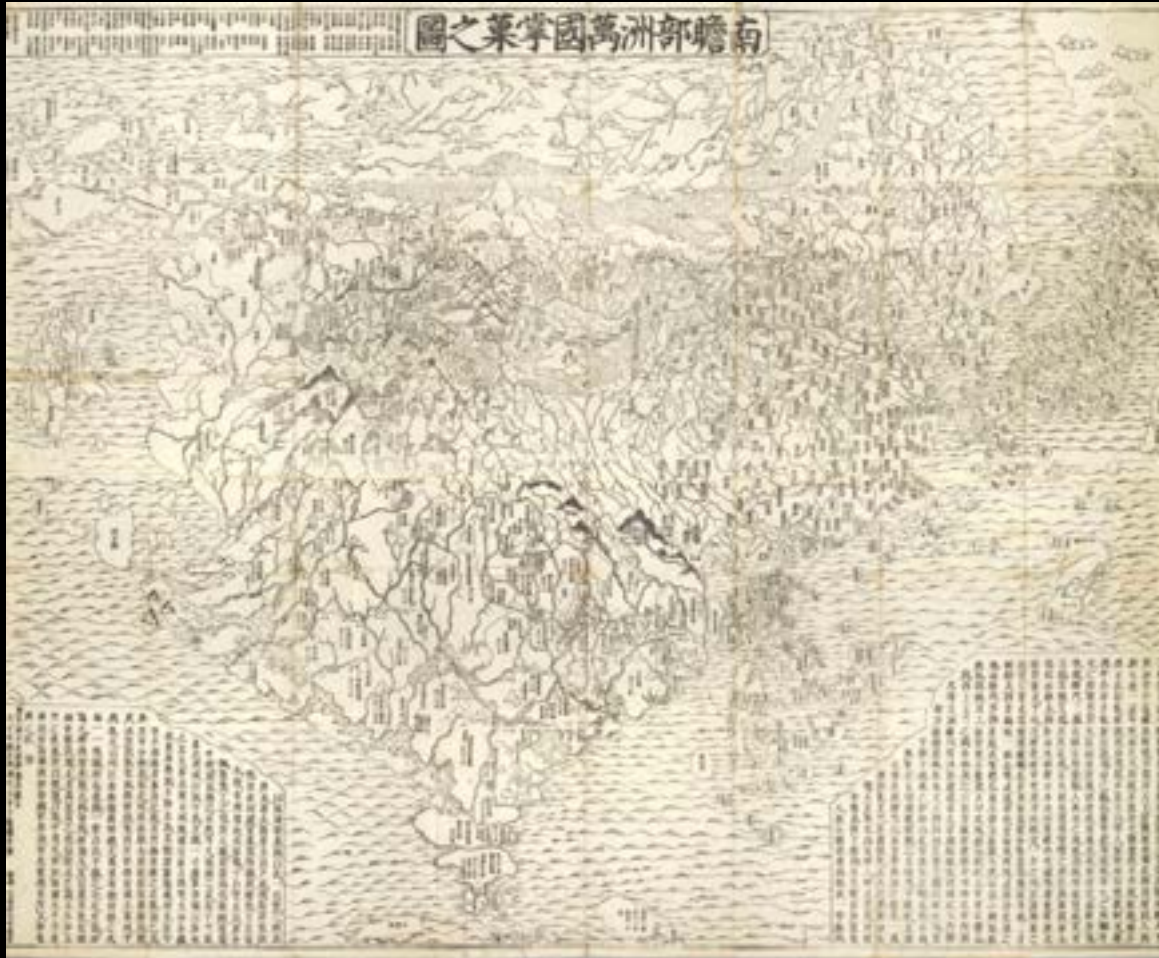


南瞻部洲萬國掌菓之圖

浪華子 1710年

「三国一の花嫁」の 「三国」ってどこ...?



仏教的世界観をあらわした図です。平安時代から「三国」という言葉が仏教文献の中で使われ始めます。当時の人々は仏教を通してインド・中国・日本の関係を知りましたが、これが知りうる世界の全てだったので、「三国」という言葉で全世界をあらわしました。本図は伝統的世界である三国に加え、右下に「亜黒利加（アメリカ）」、左上には「エウロパ」など、江戸時代にかけてもたらされた海外の情報も描き入れられています。

The Map of Three Countries, Naniwashi, 1710

This map represents a Buddhist world view. People in Japan from the 9th to 10th century learned, through Buddhism, about relations among India, China and Japan. For Japanese these three countries represented the whole world. On this map from 1710, the three countries are depicted along with America at the bottom-right and Europe at the upper-left.



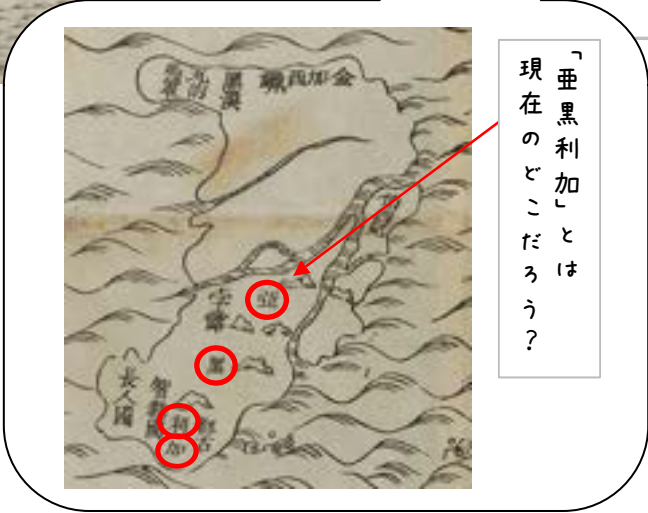
なんせんぶしゅうばんこくしょうかのず
南瞻部洲萬國掌葉之圖 1710年(宝永7年)

さんごくいち はなよめさんごく
「三国一の花嫁」の「三国」ってどこ…?



ここには何と書いてあるかな?

日本はどこにあるかな?
インド、中国もさがしてみよう!



「亜黒利加」とは現在のどこだろう?

★どんな地図?
⇒この地図は、仏教的世界観をあらわした地図です。

★三国って?
⇒インド、中国、日本です。
古い時代の日本では、世界はこの3つの国から成ると考えられ、これが伝統的な世界像となりました。
地図上では、①日本②中国③インドと考えられます。

★アメリカ、ヨーロッパ?
⇒この地図には、「亜黒利加」、「エウロパ」という字もあります。江戸時代にかけて、オランダ人から新たに聞いたアメリカやヨーロッパのこともかき入れています。